

# e-dream-s 通信

No. 84 発行：2008年1月20日 特定非営利活動法人 イー・ドリームズ

e-dream-s 通信1月号では、2月に行われるカンボジア TESOL カンファレンスに関する続報記事や、1月始めに行なわれた理事会の案件を掲載しています。また、冬休みに一時帰国しアメリカに戻られた山田理事からも早速「サンフランシスコ便り」が届きました。それでは1月号をお楽しみください。

## 目 次

- |   |      |      |
|---|------|------|
| 1. 2008年の事業はカンボジアから                         | 中川房代 | p. 2 |
| 2. A Happy Teacher                          | 辻荘一  | p. 4 |
| 3. 中心と周辺 (The Center & the Periphery) : 芸術考 | 井川好二 | p. 5 |
| 4. 贅沢な瞬間                                    | 塚本美紀 | p.11 |
| 5. <サンフランシスコ便り 5号>ある授業の始まり                  | 山田昌子 | p.12 |
| 6. こんにちは、アジア!                               | 仙崎裕右 | p.15 |
| 7. 貴重な体験、ふたたび                               | 道面和枝 | p.17 |



カンボジア・ブノンベン 中学校

©e-dream-s

カンボジアでは、ポル・ポト政権下教育は否定され、多くの知識人なども虐殺された為、未だ学校も教師の数も足りておらず、教育環境が整っていない現状があり、学校に行ける子供も少ない。これは中学校の補充授業の風景。

(1996.8…奥田信子氏 撮影)

# 2008年の事業はカンボジアから

中川 房代

明けましておめでとうございます。今年も e-dream-s をよろしく願いいたします。

私は、2008年の年明けを静岡県の両親の住む家で迎えました。早起きをして初日の出&初詣に行き、その後お雑煮を食べ、そしてお寺&お墓参りと、久しぶりに田舎の正月のフルコースを味わってきました。特に初日の出を見に行くのは30年ぶりで、何だかとても厳かで清々しい気持ちになると同時に、「今年はいい年にするぞ!」という決意を新たにしました。



静岡県・遠州灘の2008年の初日の出

さて、2008年の最初の事業は、教育支援事業（調査事業）の1つと位置づける、カンボジアでの CamTESOL (Teaching of English to Speakers of Other Languages) カンファレンスでの私たちの発表です。昨年9月から参加者を募り、応募した発表の abstract (要約文) が採用されカンファレンスで発表できることが決まったのが11月下旬、それから発表の準備を進めてきました。このカンファレンスは、「英語」と「教育」を媒介として、アジアや世界の人々が集まります。このチャンス

に私たちが直接参加できることはとても貴重であり、今後の e-dream-s の教育支援の方向性を見極める機会の1つにしたいと思いき、一緒に活動できるカンボジアや他の国々の人々とできるだけ多く出会ってきたいなあと考えています。

既に参加申し込みとホテル、航空券等の予約が完了し、後は、1ヶ月後に迫った本番に向け、発表の準備を進めるのみという段階に入っています。第1回として、1月6日に皆さんの前で発表を行いました。

私たち e-dream-s&ACROSS がどういう目的で ECAP を企画・開催し、それが参加者にとってどういう意義があったのか、特に英語を外国語として教えている日韓の英語教師にとって優れた研修プログラムであることを伝えたい、と考えています。ECAP 2007の様子が見られる DVD を辻代表理事が編集してくださいました。カンファレンスの参加者にそれを見て頂くことで、より効果的な発表になると思います。また、カンファレンスの参加者に ECAP 2008 の参加と、今後 e-dream-s と ECAP を開催するパートナーになりませんか?との訴えもしてきたいと考えています。

1月6日はまだ試作の段階での発表でしたが、発表者自身も発表したことで過不足の点、不明な点、焦点の不明確な点などがわかりましたし、また皆さんのご意見を参考にさせて頂きながら、準備に勤しんでいきます。

1月4日には第27回の理事会を開催し、9月からの事業報告、収支報告を行いました。理事以外の多くの会員の皆さんの参加で、論議を行いました。

理事会の議事は以下の通りです。次回の理事会は5月末の予定です。カンボジアカンファレンスのよい報告、他の事業での報告事項が増えるよう、今年も活動しましょう。皆さんのご協力をお願いします。

**第27回理事会（拡大理事会）での案件（2008年1月4日：京都）**

**(1) 報告事項1：2007年度事業中間報告**

- (a) 助成金応募状況、今後の方針（稲川宏美）
- (b) CamTESOLカンファレンス・ツアー準備状況、今後の方針（塚本美紀）
- (c) 「ECAP 2008」準備状況、今後の方針、実行委員会発足（岡崎節子）

**(2) 報告事項2：2007年度収支決算中間報告（藤本美佳）**

**(3) その他 サンフランシスコ・セミナー提案（山田昌子）**

# A Happy Teacher

辻 莊一

近年教育はますますサービス産業化していて、授業料と割いた時間への対価として「教育効果」を求めるといふ姿勢の生徒や保護者が増えつつある。学校もこの要求に対応せざるを得なくなってくる。教師も、やや自虐的にせよ、授業や担任業務をサービスとして捉えるようになりつつある。英語教師ももちろん例外ではない。というか英語という教科はサービスっぽさが濃い。

よきサービスパーソン<sup>1</sup>であるために英語教師は、自分の英語力を磨き生徒を飽きさせない授業方法を研究し、生徒たちがより短時間でより多くの成果を、しかも楽しくあげられるように日々研鑽を怠らないわけである。「サービス！サービスウ！<sup>2</sup>」というわけだ。

もちろんこれが悪いわけではない。ちゃんと「サービス」できない教師だって結構いるわけで、それに比べれば、ちゃんと「サービス」ができる教師はしっかり仕事をしているというべきである。

一方、教育は単なるサービス産業ではではないという考え方もある。生徒たちにとって学校は、知識や技能を獲得するだけでなく、「学ぶ楽しさ」を学ぶ場であるという考え方だ。その立場に立てば教師も「サービスパーソン」としての能力以上の何かが必要になる。授業もサービス提供の場、以上のものであるべきだということになる。

しかし「学ぶ楽しさ」なんてものを教えるやり方を一般化・マニュアル化できるはずもない。だからここで学ぶ楽しさを教えるやり方を探して覚えようなどと考える人間はすでに失格である。

「学ぶ楽しさ」を教えることが可能だとすれば、それは一つしかない。それは教師自身が絶えず新しいことに挑戦し、楽しく学んでいる姿を見せることである。楽しく学びつつ自分の人生を生き、そういう存在として生徒の前に立つことである。

新しい経験をするスリル、できなかったことができるようになる嬉しさ、知らなかったことを知る楽しみ、ぼんやりしてよく分からなかったことがはっきりして全体を見渡せるようになったときの喜びを感じながら生きている教師だけが「学ぶ楽しさ」を伝えることができるのである。

---

<sup>1</sup> 日本語英語のサービスパーソン。英語のservicepersonは「軍人」の意。

<sup>2</sup> アニメ「新世紀エヴァンゲリオン」の次週予告中の葛城ミサト三佐の台詞。

## 中心と周辺 (The Center & the Periphery) : 芸術考

井川 好二



モントフォンテーヌの思い出

Jean - Baptiste - Camille Corot

(Souvenir of Mortefontaine) 1857 年<sup>3</sup>

「今日は、廿日市<sup>4</sup>の地御前から、牡蠣の新しいのが入りましたよって」と女将が、運んで来たのは、信楽の小鉢に入った酢牡蠣。シンプルだが、牡蠣本来の美味さが引き立つ。

「フランスで、牡蠣はタント召し上がりはったでしょうけど・・・」

「嫌みか？」

<sup>3</sup> 65×89cm | Oil on canvas | Musee du Louvre, Paris:

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%82%B3%E3%83%AD%E3%83%BC>

<sup>4</sup>はつかいち【廿日市】広島市の南西部、広島湾西岸にある市。もと市場町で、山陽道の宿場町。広島市の衛星都市。人口7万2千。[株式会社岩波書店 広辞苑第五版] ●廿日市宿について：廿日市は厳島神社領平良荘の市場町として成立し、厳島神主家の居城である桜尾城の城下町でもあった。天正15年に豊臣秀吉の島津氏攻撃により、兵站路及び連絡路として山陽道の整備が行われ、毛利氏の命により町屋の入口を含め改修が行われた。江戸時代に館庁が置かれ、伝馬15匹を設けていた。宿のほぼ中央に本陣が置かれ、本陣役には山田家が勤番していた。町屋の北には天満宮の小阜が聳え、厳島合戦に因む古刹の洞雲寺がある。宿の東には石見津和野藩の舟屋敷と舟入が設けられ、西方宮内村まで西国街道と併用され、有名な夜泣き石で津和野街道となり分岐していた。また串戸で厳島神社への参詣路が分岐し、地御前神社方面へ至っている。平良で北方の速谷神社や極楽寺への参詣路が分岐し、古代以来の社寺に各々結ばれる。

<http://www.c-haus.or.jp/kaidou/003hatuka.html>

「違います、日本の牡蠣も忘れんはらんようにて、思ただけどす」

「フランスには、フランスの味」

「日本には、日本の味どす」

フランスと云うとすぐに、「芸術」あるいは「芸術家」を思い出してしまうのは、西欧文明の周辺国に暮らす日本人の、中心への憧れや劣等感から来る哀しい条件反射。ルネッサンス<sup>5</sup>にしる、印象派<sup>6</sup>にしる、シュールレアリスム<sup>7</sup>にしる、「芸術」の原産国は、世界の中心ヨーロッパ。そしてそのヨーロッパの中心は、フランスであるからである。

「お酒は、久しぶりに、賀茂鶴にしはりますか？」

「そやなあ、牡蠣には広島酒がよう合う」

と、銀鼠の小紋が似合う女将が、程よく冷えた賀茂鶴を、片口から注いでくれる。その辛口に牡蠣の滋味を増す。

中心と周辺、英語で云えば、The Center<sup>8</sup> & the Periphery<sup>9</sup>。“Periphery”の代わりに、より価値判断の要素を含んだ“marginal<sup>10</sup>”と云う言葉を使うこともあるし、その動詞形である“marginalize<sup>11</sup>”で、中心と周辺の関係性を明確化する場合もある。中心と周辺を、東洋風に云えば、中華<sup>12</sup>と夷狄<sup>13</sup>。つまり、世界の中心とその恩恵に浴する周辺の国々、と云う世界観である。この中華思想の観点

---

<sup>5</sup> ルネサンス [Renaissance フランス] 一四～一六世紀、イタリアを中心に全ヨーロッパに広まった学問・芸術・文化上の革新運動。中世の教会中心主義から離れて古代ギリシア・ローマ文化の復興をめざし、現世の肯定、人間性の解放、個性の重視などを主張した。文芸復興。ルネッサンス。[明鏡国語辞典]

<sup>6</sup> いんしょう - は【印象派】印象主義を唱える芸術家の流派。◇絵画ではマネ、モネ、シスレー、ルノアール、彫刻ではロダン、音楽ではドビュッシーなど。

[明鏡国語辞典]

<sup>7</sup> シュールレアリスム 【surréalisme フランス】 1920年代、ダダイスムにつづいてフランスに興った芸術運動。ヘーゲルの哲学、フロイトの深層心理学、アポリネールの詩法、キリコの画風などの影響のもとに、意識下の世界や不合理・非現実の世界を探究し、既成の美学・道徳とは無関係に内的生活の衝動を表現することを目的とする。文学ではブルトン・デスノス(R. Desnos 1900～1945)・エリュアールなど、美術ではエルンスト・ミロ・ダリなどが代表者。超現実主義。シュール。[株式会社岩波書店 広辞苑第五版]

<sup>8</sup> the most important place in the respect specified : Geneva was then the center of the international world.(OAD)

<sup>9</sup> a marginal or secondary position in, or part or aspect of, a group, subject, or sphere of activity : a shift in power from the center to the periphery. (OAD)

<sup>10</sup> of secondary or minor importance; not central(OAD)

<sup>11</sup> treat (a person, group, or concept) as insignificant or peripheral(OAD)

<sup>12</sup> 【中華】チュウカ 中国人が自分の国をいうことば。▽世界の中央にある文化の開けた国の意で、中国人が自国を誇っていたもの。『中夏チュウカ・中州チュウシュウ』

[漢字源]

<sup>13</sup> い - てき 【▼夷▼狄】未開の民族や外国人を卑しめていう語。野蛮人。◇昔、中国で自らを「中華」と称し、東方の外民族を「夷」、北方のそれを「狄」と呼んだことから。[明鏡国語辞典]

から云っても、日本は「東夷<sup>14</sup>」。もともと周辺国であった。歴史的に云って、中華の恩恵に随分浴して来た。

話をフランスへ戻す。例えば、明治40年(1907年)に、船でアメリカからフランスのルアーブル<sup>15</sup>に着いた、27歳の永井荷風<sup>16</sup>は、パリへと向かう列車行。車窓から見える田園風景を、少々興奮気味に云う：

・・・北米大陸の広漠、無限の淋しい景色ばかりに馴れていた自分の眼には、過ぎ行くノルマンディーの野の景色は、まるで画(え)だ。余りに美しく整頓していて、生きているものとは思われぬ処がある。(永井荷風、1907, pp. 13-14<sup>17</sup>)

それかあらぬか、列車がパリに近づくにつれ、青年荷風は、見渡す限りの広い黄金色の麦畑や、細い小道が紆余曲折しているさまなど、「フランスらしい」景色に心打たれ：

・・・その位地、その色彩は、多年自分が、油絵に見ていた通りで、いわば、美術のために、この自然が詭向きに出来上がっているとしか思われず、それがため、「自然」そのものが、美しい極。已(すで)にクラシックの類型になりすましているようで、かえって、個人的の空想を誘う余地がないとまで思われる。(永井荷風、1907, p. 14)

今回の私のフランス行では、ノルマンディーには行かず、季節も違っていたのが、リヨン・アヌシー間の列車中、冬枯れの田園風景に、ミレー<sup>18</sup>の「晩鐘」を思い出す景色や、コロー<sup>19</sup>の描く農村風景の中を行く気持ちになったのは、荷風が云うように、フランスの自然が、「美術のために」出来上がっているような気がした。また、アメリカの自然があまりに広漠としていて、淋しさを催すとの指摘にも、無理なく共感できる。

---

<sup>14</sup>古代中国で、東方の異民族を卑しめて呼んだ語。→西戎(せいじゅう)・→南蛮・→北狄(ほくてき)[明鏡国語辞典]

<sup>15</sup> Le Ha·vre ルアーヴル 《フランス北部の, Seine 川河口の北側にある市・港町, 22 万; 旧称 Le Havre - de - Grâce》[株式会社研究社 リーダーズ+プラスV2]

<sup>16</sup>ながい - かふう【永井荷風】小説家。本名、壮吉。東京生れ。広津柳浪に師事、「地獄の花」などでゾラを紹介。のち、明治末期に耽美享楽の作風に転じた。当代文明への嫌悪を語りながら、江戸戯作の世界に隠れ、花柳界など下層狭斜の風俗を描いた。作「あめりか物語」「すみだ川」「腕くらべ」「おかめ笹」「瀬東綺譚」、日記「断腸亭日乗」など。文化勲章。(1879～1959) [株式会社岩波書店 広辞苑第五版]

<sup>17</sup> 永井荷風(1907/1952)「船と車」(『フランス物語』東京：岩波文庫に収録)

<sup>18</sup>ミレー【Jean - François Millet】フランスの画家。バルビゾンに住み農民の友としてその生活を描いた。作「春」「落穂拾い」「晩鐘」「種をまく人」など。(1814～1875) [株式会社岩波書店 広辞苑第五版]

<sup>19</sup> コロー【Jean - Baptiste - Camille Corot】フランスの画家。バルビゾン派の一人。銀灰色の夢幻的な風景画で知られ、また、鮮明な色彩の習作風景画と人物画で再評価された。作「真珠の女」など。(1796～1875) [株式会社岩波書店 広辞苑第五版]

「フランスでは、景色まで芸術的ですか？」

「まあ、その『芸術』と云う考え方自体が、フランス製やから」

「ホンニ。西欧の、云う意味ですか」



ミレー 晩鐘<sup>20</sup>

このフランス崇拝の傾向は、日本人の「性<sup>21</sup>」であるばかりか、「旧世界ヨーロッパ」から「新大陸」に移住した、アメリカ人にも共通した特質と云える。そして、戦後の日本人が持つ「欧州観」の、もっと正確に云えば「フランス観」の大きな部分が、アメリカ人が持つ「フランス観」の焼き直しであると云うのが、私の長年の持論である。辺境国同士、欧州コンプレックスを共有してきたのである。

そして、そのフランス観は、必ずしも、フランスを世界の中心として見た場合の周辺国であるアメリカや日本からの、一方的な見方であるばかりではなく、フランス自身が持つ「自画像」とも、ある程度共通したものであったと云える。

しかし、こうした世界が持つ「イメージ」やフランス人自身の持つ「自画像」に、最近変化が生じている、と云えるのではないだろうか？

<sup>20</sup> <http://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%82%B8%E3%83%A3%E3%83%B3%E3%83%9F%E3%83%9D%E3%83%95%E3%83%A9%E3%83%B3%E3%82%BD%E3%83%AF%E3%83%BB%E3%83%9F%E3%83%AC%E3%83%BC>

<sup>21</sup> さが【▽性】人の力で左右できない本性。また、もって生まれた宿命。「悲しいー」[明鏡国語辞典]



英語の「Global Language 化」が、急速に進行している。世界で 10 億人以上の人々が、英語を話し、その数は日に日に増えつつある。このことが、フランス語の地位低下、そしてフランス文化そのものの地盤沈下に繋がっている。世界中にある 900 ものフランス政府主導の学校で、58 万人もの学生を抱え、長年フランス語の普及に努めてきたのも関わらず、この英語ブームの趨勢には勝てなかったのである。

2007 年年末から 2008 年正月のフランス行でも、多くのフランス人が流暢な英語を話し、そのことで旅行は随分スムーズなものとなった。また、全労働者の 15% を越える移民の存在も、フランスの自信喪失の原因なのかも知れない。パリでもリヨンでも、地下鉄やバスの乗客の半数が、非白人であった。

むろん、そうした国内の外的要素が必ずしも、「フランス中華思想」を崩壊させるものとは限らない。しかし、そうした多民族化、多文化社会化の中で、フランス自体が、ある種の戸惑いを持って立ち止まり、「新しいフランス」として自信を持って、再生するには、まだなお時間がかかるのかも知れない。

フランス行きのエールフランスの機内で、付け焼き刃<sup>22</sup>にしろ、フランス語の復習をしようと観た英語字幕のフランス映画。タイトルは確か、「芸術家たち」。いかにもフランス好みの、オムニバス形式のホロ苦コメディであった。

ストーリーは、3 人の芸術家志望の、それでいて本物の才能はないのかも知れない男女が登場。一人目は、高校の国語教師で作家志望の中年男。学校には内緒で同僚の女教師と同棲している。二人目は、歌手志望の若い女の子。カラオケバーや、レストランのウェイトレスをしながら、オーディションを受けたりしてチャンスをうかがう。三人目は、女優志願の 30 代女性。日本製アニメの吹き替えの声優<sup>23</sup>としてのキャリアはあるが、どうしても舞台女優の夢は、あきらめきれない。そんな三人それぞれに、千載一遇のチャンスが訪れる。

と云って、高校国語教師のチャンスは、皮肉なもの。自分の書いた小説は全く売れないのだが、自分のものだと偽って出版社に渡した生徒が書いた小説が、出版社に大受け。早速出版の運び。歌手志望の女の子は、努力の甲斐あって、大御所作曲家に曲を書いてもらうことになる。女優志望は、友人の舞台女優が映画出演の話断れなくて、現在出演中の舞台に、急遽彼女を代役として抜擢。それぞれに、真の芸術家として人生が開くかに見える。

---

<sup>22</sup>つけ - やきば【付け焼き刃】一時の間に合わせに、にわか仕込みで知識や技術などを身につけること。また、その知識や技術。「一の勉強」◇もと、鈍刀に鋼(はがね)の焼き刃を付け足したものの。切れそうに見えるが、もろくて実戦の役には立たないことから。[明鏡国語辞典]

<sup>23</sup>せい - ゆう【声優】姿を見せず声だけで出演する俳優。ラジオの放送劇、テレビ・映画の吹き替えなどの俳優。[株式会社岩波書店 広辞苑第五版]

「それで、どないなりましたん？」

と女将が、熱心に訊く。こっちが、「賀茂鶴、もういっぱい」と云えば、

「そんなら、うちも、お酒いただきます」

同棲相手に励まされた高校教師は、出版社に乗り込み、自分の作品ではないと白状。その生徒を自宅に呼んで、実はと切り出せば、高校生曰く、あの小説は、プロの作家である祖母の作品をコピーしたもの。嗚呼。歌手志望は、大御所の邸宅に行き、つくってもらった曲を聞くが、酷い駄作。大御所も才能枯渇か、万事休す。女優志願の友人女優の予定変更。映画の話はなくなり、舞台続投。女優志願の出番はない。断りかけていたアニメファンの集いに、急遽出席。ファンの大きな声援に、声優も捨てたものではないと思ひ直す。

「けど、哀しおすな」

フランス芸術の行方も、これからは、ちとホロ苦いのかも知れない。しかし、それもまた良いのが、フランスなのだろう。周辺国の民としては、中心国フランスが、芸術の栄光に再び包まれるのを見たいと願うのが、当然と云えば、当然の話。

「センセ、今夜は、もうちょっと飲みましょう」

美味しい牡蠣を肴に、辛口の酒を飲みながら、世界の中心に思いを馳せつつ、周辺国の夜は、ゆっくり更けていく。(Saturday, January 19, 2008)

## 贅沢な瞬間

塚本 美紀

朝から雨が降っているの、午後から着物を着て出かけるのには雨ゴートがいるなあと、和ダンスの奥から雨ゴートの入っている畳紙を取り出し、畳の上で広げてみる。昨年の梅雨に、雨が降ったときにと用意していたものだが、幸か不幸か雨の日に着物を着ることがなく、今日初めて袖を通すことになった。深呼吸して、丁寧に仕付け糸をはずしていく。この瞬間が大好きだ。この着物を準備してくれた人、縫ってくれた人、そして私の手元に届くまでに携わった人たちのことを考える。そして、これを着て歩いていく先のこと、そこから生まれる新しい世界に思いを馳せる。少し大げさではあるが、サラリーマンの家庭に生まれ育った私には、仕付け糸をはずす瞬間など、一生のうちそう何度もあるわけではない。自ずと気持ちは高まってしまう。

この感じは何か似ているなあと思っていると、これと似た経験を今していることに気がついた。私は今、Cam TESOL 参加者の申込書を取りまとめて、事務局に送る準備をしている。一枚一枚の申し込み用紙に目を通してると、その重みに気がついた。住む地域も、働く場所も違う私たちが、一つのことをやろうとしている。私たちがここまでくるのを応援してくださったり、支えてくださったりした方々が、それぞれの場所において、その結果この申し込み用紙が今ここにあって、これがこの先カンボジアに送られて、私たちの新しい活動の第一歩になることを思うと身が引き締まる思いだ。今月行われた理事会の後、「カンボジアの報告を楽しみにしてるよ。」「私の分も、しっかり見てきてね!」と多くの人に言われ、自分ひとりだけではなく、皆さんと一緒にこの準備をしていることを感じた。多くの人たちのご協力を得ながら、e-dream-s は今、もっと広い世界で教育関係者と繋がろうとしている。

雨ゴートを着て外に出ると、自分が急に着物を着慣れた人になれたようで嬉しい。これからは雨で着物をあきらめる必要もない。新しい着物は私に新しいステージを用意してくれる。次に新しい着物を誂え、仕付け糸をはずすわくわくした瞬間を楽しむのはいつの日になることか。けれども私にはもっと贅沢な瞬間がある。ここ e-dream-s には、丁寧に作られた着物の仕付け糸をはずす時よりもっとわくわくする、とびきりの瞬間がたくさん用意されている。カンボジアまであと一月と少しである。

## ある授業の始まり

理事 山田昌子

昨日サンフランシスコに戻って来ました。一時帰国中、不思議なことにはずっと落ち着かなかったのです。京都が自分の故郷の筈なのに、京都に旅行しているような気になったのはどうしてなのでしょう。サンフランシスコに約5か月住み、まだ1年半こちらで過ごさなければいけないからでしょうか。サンフランシスコ市サンセット地域にある家で間借りしている自分の部屋に帰ると、何故か安心しました。自分の居場所はここだと感じました。でも、落ち着き場所に戻りはしましたが、実は、初めての学期が終わるとホッとして気持ちがふやけてしまっているのです。1週間後に始める春学期に向け、気をひきしめなければいけません。今、先学期の授業が始める前の緊張感を思い出そうとしています。そこで、あるクラスの初めての授業で起こったことを思い出しました。今回のサンフランシスコ便りはその出来事を書こうと思います。

その授業は、"The Structure of English" つまりチョムスキー [\[1\]](#) の普遍文法 [\[2\]](#) についての授業でした。担当教授は、バングラディッシュ出身の Dr. J、ベテランの男性教授です。どんな先生なのか、どんな授業をされるのか、気になります。教科書を見ると、"Introduction to Government & Binding Theory" (Liliane Haegeman著)、なんだか難しそうです。大学時代、変形英文法を利用した卒業論文を書いた筈なのに、もうすっかり忘れていました。わからなかったらどうしよう、そう思っているのは私だけではないようでした。授業開始5分前、既に40名程入れる教室に、ぎっしりと学生が集まり、静かに座り、先生を待っています。学生たちは、まだお互いの顔も名前もわからないので、一層静かです。そこに Dr. Jが入ってこられました。準備をして授業を始めようとした時、教室のドアが開き、背の高くすらりとした黒人男性が入って来ました。小さな、チワワという犬を連れていました。チワワは飼い主の後をちょこまかと走り、とても忠実な犬のように見えました。

その学生は「このクラスは〇×のクラスか？」と尋ねましたが、明らかに違うクラスのようでした。でもこのクラスの授業を受けようとしているようにも思えます。何度か教授と英語でやり取りをしていました。<どうも様子を変です>

"Do you speak English?" "You're not good at English."という声はその学生から聞こえて来ました。私は自分の耳を疑いました。教授に向かってそんなことを言う学生がアメリカにはいるのか。でも、私には教授の言葉はわかりやすい英語だと思いましたし、英語が下手だとは思えませんでした。そのうちその学生が言うには「ここはバングラディッシュじゃないんだから！」<失礼この上ない！>

また、教授は、その学生が連れてくる犬を見て、「教室から犬を出しなさい」と言いました。その学生は「この犬は自分のケアをしてくれる大切な犬だから嫌だ」と言い張り、言うことを聞きません。でもオリエンテーションで聞いたところによると、犬などの動物を教室に持ち込んではいけないというルールがあった筈です。<変だなあ！>教授は、仕方なく「大学ポリスに連絡す

ることにする」と教室を出て行かれました。大学には、大学キャンパス内の警備をする部署があり、その部署からオリエンテーションでもルールや自分の安全は自分で守るようにと話がありました。その間約10分。その男子学生は、「自分は52歳のアメリカ市民だ。民主主義では言うべきことを言うのは当然だろう！」と宣っています。その他の学生は、事態をしっかりと見ようとしているのか、ただ静かにしています。

大学ポリスが廊下に来るとその学生は教室から出て行きました。ようやく授業がスタートしました。それでも授業が終わる直前にまた入室して、「ポリスは入ってもいいと言った。」と素知らぬ顔。不思議な授業のスタートでした。

翌日、学科長から以下のeメールが届きました。クラスをとっている全員に送付されているようです。

To: Students in English 421

From: Prof. V (略), chair, Department of English Language and Literature

One of the members of our office staff has told me that several students came to the office yesterday to report a student's disturbance of class. If you wish to send me a statement in writing, please do so; if you wish to meet with me during office hours, would you reply by email. I appreciate your concern. I hope with your help to re-establish an atmosphere of mutual respect, free of intimidation. Thank you.

教室で座っていた何人かの学生が英語科のオフィスで報告をすると同時に、同じことが起こらないように依頼に行ったようです。その他知っていることや要望があれば知らせてほしいということなのでしょう。私もとりあえず上記の出来事についてeメールをしました。次の授業でも、あの学生がやって来て授業妨害をするのだろうか、そう不安に思っていると、翌日再び学科長から以下のeメールが来ました：

Dear Masako,

Thank you very much for your reply. I have been informed that the associate dean of the College of Humanities will come to the class tomorrow to be sure that there is no disturbance.

Yours sincerely,

V(略) Professor and chair, Department of English

今度は、副学部長が授業妨害を避けるため私たちのクラスにやってくるというのです。大事にならなければと心配しましたが、あの学生はやって来ませんでした。<ホッ!!>

彼は、その後他の事件で大学の学生新聞にも掲載される程の「困ったチャン」らしく、キャンパスでは有名人だったようです。アジア出身の教授に嫌がらせにやって来たのか、真相はわかりません。それにしても、大学の対応の的確さや速さ、ネットを使用した情報収集やコミュニケーションには驚きました。アメリカの大学が皆そうなのかはわかりません。でも、私にとっては初め

での授業で起こったことですので、インパクトも大きく、クラスメートの中では未だに語られている事件です。ちなみに、Dr. Jは、アメリカ人学生にも留学生にも人気のある、わかりやすい授業をすることで定評のある教授で、私もこの教授のファンの一人です。

(January 19, 2008)

---

[1] **【Noam Chomsky】** アメリカの言語学者。生成文法理論の提唱者。ことばの創造的側面・普遍的特質・習得の生得性を主張。ことばの研究を通して人間の精神構造の解明に貢献。反戦平和運動にも活躍。著「文法の構造」「文法理論の諸相」「形式と解釈」「総率・束縛理論」など。(1928-) <広辞苑 第五版、岩波書店>

[2] **(universal grammar)** 生成文法理論の用語。人間言語全般に該当する文法的な原理・原則・操作・概念の体系。ことばは人間の遺伝的資質に根ざしており、普遍的な性質が存立すると考えられている。⇨ 生成文法。<広辞苑第五版、岩波書店>

# ជំរាបសូរ 24、 আসসালাম ওয়ালাইকুম 25 ! アジア!!

仙崎裕右

昨年末に父親になった。

「え、結婚もしていないのに？」と驚かれるかもしれない。あるいは、オチを知っているマイク<sup>26</sup>さんはニヤニヤ笑っているかもしれない。妙な期待？を持たせるのも申し訳ないのでさっさと種明かしすると、1人の子どもの里親になったのである。



CamTESOL まで残すところ約1ヶ月になった。実感も何もなく、ただ、アンコールワットを見たい！と飛びついたこの企画も、参加した重要性に気づかないまま、あっという間に準備が進んでいく。行程、発表の分担、宿泊、移動など、塚本先生や田中さんの手際よい動き、中川先生のすばやい情報伝達… 私があぐらを書いている間に進んでいくさまを見て、ようやく事の重要性に気づいてきた。気軽な気持ちで大それた事をしてしまったかな、なんて思ったのだが、そうも言っていられない。やれることはやってみよう、と、プレゼンの練習をした ACROSS の冬合宿でようやく覚悟ができてきたのが実情である。

この2年間、E C A P に通常の participants 以上の関わり方をさせていただいた。おかげで、(実は、英語・語学教師としてはあるまじきことかもしれないけれど、教員になる以前は外国との交流にはまったく関心がなかったのであるが)、国際交流することに味をしめてしまったのである。もちろん、これまでどおり、深まりつつある韓国とのつながりも大切にしたいのであるが、他の国とのつながりもほしくなってきたのである。30歳を過ぎて初めてパスポートを取った。まだカナダと韓国しかスタンプが押されていないこのパスポート、もう少しいろんなスタンプを押してみようと思ったのである。

ということで、2008年は自分にとってのアジア・イヤーにしようと、昨年末決心した。もちろん、ただ、訪問したい、旅行したいというだけではなく、今の自分にできることをしていきたいということである。

<sup>24</sup> クメール語 (カンボジア語) で「こんにちは」。「チョムリア(プ) スーア」と読む。カンボジア語ミニ講座 (<http://www.bekkoame.ne.jp/~ema/lesson.html>) より

<sup>25</sup> ベンガル語で「こんにちは」(イスラム教徒の挨拶)。「アッサラーム アライクム」と読む。ベンガル語単語集 ([http://book.geocities.jp/ben\\_nichi/index.html](http://book.geocities.jp/ben_nichi/index.html)) より

<sup>26</sup> mixi (SNS : ソーシャル・ネットワーキング・サービス <http://mixi.jp/> の最大手) 内での友人をさす。

その一環として、冒頭に挙げたように、里親になることを決めた。きっかけは昨年末。アマゾンで本を買った時に、入っていた広告である。「ワールド・ビジョン・ジャパン<sup>27</sup>」というNPOが募集していた、「チャイルド・スポンサーシップ」という制度。月々4500円を援助することで1人の子ども、地域を支援できるというもの。ちょうど、自分の授業で松井秀喜の慈善活動について話をしていたところである。教科書では10人のベトナムの子どもの里親になっている<sup>28</sup>と書かれていた。30歳でようやく就職して、まだまだ自分の稼ぎではそこまではできそうもない。でも、1人ぐらいならいけるかな、と思い申し込んでみた。約1週間後、登録が完了した旨の通知と、自分が支援するチャイルドのプロフィールが届く。国や性別までは希望をしなかったが、アジアを希望していた。カンボジアになったら、その後e-dream-sの活動をしていたら会うこともできるかな、と少し期待したが、バングラデシュに住む5歳の男の子に決まった。写真を撮られることに慣れていない、なんとも緊張した面持ちではあったがかわいらしい男の子だ。こちらの職業を考慮したのかはたまた偶然か、父親の職業が教師とあった。11月にサイクロン「シドル」で大きな被害が出た<sup>29</sup>ばかり。1ヶ月して現地から手紙が送られてきた。まだ字が書けない（まだ学校に通う年ではない）チャイルドの代わりに現地スタッフが代筆していたが、感謝と紹介を兼ねた手紙に書かれたベンガル文字に、何が書いてあるのかまったくわからないけど、また一つ、アジアとのつながりを感じたのである（もちろん、英訳がついていたので内容は伝わっていますが）。もう1枚の紙に添えられていた本人の手形。ようやく本人とつながった気がする。和風の便箋や絵葉書までは買ってきたけれど、まだ返事が書けていない。はやく、返事を書きたいものだ。実際に対面できる日が来るといいな。

今年、カンボジアとバングラデシュ。2つのアジアの国が私にとって特別な国になるだろう。もちろん、E C A Pでつながった韓国も。まだこれからも増えるかもしれない。まだまだアジアとのつながりも始まったばかり。パスポートのスタンプのように、増えていくだろうか。

まずは差し迫ったCamTESOL。発表の日程も確定したし、アンコールワットも見られることがわかった。極東の恥さらしにならないように準備していきたい。

---

<sup>27</sup> <http://www.worldvision.jp/index.html>

<sup>28</sup> 簡単ながら、ウィキペディアに紹介がされている。

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E6%9D%BE%E4%BA%95%E7%A7%80%E5%96%9C#.E9.96.A2.E9.80.A3.E3.82.A8.E3.83.94.E3.82.BD.E3.83.BC.E3.83.89>

<sup>29</sup> ユニセフHPより。 [http://www.unicef.or.jp/kinkyu/bangladesh/2007\\_1101.htm](http://www.unicef.or.jp/kinkyu/bangladesh/2007_1101.htm)



## 貴重な経験、ふたたび

道面 和枝

ECAP2007の「日韓交流のつどい」では、「学校生活」についての授業を担当しました。Cho Sungjin先生にお願いして、韓国の学校での生徒の様子（授業や給食の風景など）をビデオに撮ってきていただいたものを使用したところ、日本の中学生たちはたいへん興味を持った様子で画面を見ながら、気づいたことを発表したり質問に答えたりしました。授業を終えた後、せっかくの authentic なビデオ教材なので、自分の授業でも使いたいと考え、自分の PC に保存していただきました。そして先日、中学1年生の「現在進行形」の導入で使ってみたところ、予想以上の収穫がありました。

生徒には、ビデオを見せる前に、「昨年夏に東京で、韓国の先生方と一緒に日本の中学生に韓国の文化を紹介する授業をしたこと、このビデオは、韓国の先生に撮ってきてもらったもので、そのときの授業で使った」と伝えました。「冬のソナタ」などの韓国ドラマはチラリと見たことがあっても、中学生の学校生活は見たことがない、という広島の子供たちは、東京の中学生同様、韓国の生徒たちが英語や体育の授業を受けている場面、給食の配膳をしている場面、箸やスプーンを使ってキムチなどを食べている場面を、興味深そうに見入っていました。

画面を見ながら英語の応答をしなかったこともありますが、夏の授業の反省（日本語の多用！）を生かして、それぞれの場面で生徒が何をしているところであることを、現在進行形を用いて「英語のみ」で説明を行いました。場面と意味が直に結びつくこともあり、生徒には新しい文法事項がすんなり頭に入ったようでした。

しかし、英語の学習以上に大切なことがありました。それは、ある生徒が、「韓国の先生と一緒に授業をした」という説明に対して、

「先生、韓国語も話せるんですか？」と質問してきた時のことです。

“No, we used **English**.”と私が答えると、ほかの生徒たちも、「あっ、そうか！」

母国語が違う人同士が意思疎通を図るとき的手段は「英語」なんだということを、生徒たちが身近な例として感じた瞬間でした。私自身も、教師が英語を使ってコミュニケーションを図る経験をしていれば、英語の必要性を生徒に説得力を持って示すことができるのだと改めて感じ、ECAP2007 という貴重な体験をさせていただいたことに感謝しました。

今回ふたたび、2月のカンボジア TESOL カンファレンスで、参加者のみなさんが ECAP2007 を通じて得たことをアンケート結果や「報告集」などをもとに伝える、という貴重な体験をさせていただくことになりました。これまで多くの方々の努力の延長にある ECAP2007 の成功を、代表としてうまく伝えるために準備をしているところです。初歩的なテキストを手「パワーポイント

の効果的な使い方」について（今さらながら）学ぶと共に、英語のプレゼンのための英語力もつけなければなりません。生徒に英語の宿題をたっぷり出しているのと同様、自分自身もこれらの宿題をしっかりとやって臨もうと思っています。

<編集後記>

理事会の報告からも、2007年度の活動から2008年度へと多くの人たちの力によって、e-dream-sがより大きく成長していく様子がみえてきます。2008年度は、まずはカンボジアのTESOLカンファレンスから。次号で直前の様子が報告されることと思います。2008年が、皆様にとって良い1年になりますように。

(道面和枝)